

中学校の歴史教科書で使用する写真に関する一考察 — 第一次世界大戦から太平洋戦争まで —

武島 良成

A Study of Photographs from History Textbooks for Junior High School
— From WW I to the Pacific War —

Yoshinari TAKESHIMA

Accepted November 9, 2007

抄録：本稿では，中学校の歴史教科書に載せるべき写真について，筆者が個人的に収集してきた写真雑誌などから，適当と考えられるものを紹介していく。対象とする時期は第一次世界大戦から太平洋戦争までとし，合計 41 枚を提示する。1 回の授業分に対応する写真が数枚にすぎない以上，教科書に載せるものは 1 枚ずつ意を尽くして選ぶべきであり，本稿で提示するものを，その改善に向けての論議の叩き台としたい。

索引語：歴史教科書，歴史写真，着色写真

Abstract： This study shows proper photographs for junior high school history textbooks from my private collection, especially old magazines. The content of these pictures ranges from WW I to the Pacific War, 41 pictures. As only a few pictures are used in history class, we should carefully select them for textbooks. I hope my presentation in this study leads to further discussion for improving the visual content of textbooks.

Key words： history textbook, photographs of history, colored photographs

はじめに

中学校の歴史教科書は，見開き 2 頁が 1 回の授業に対応するようにつくられている。近現代史の部分では，その 2 頁につき 3 ～ 4 枚の写真・地図やグラフが挿入されている。その際，地図やグラフは，教科書がカラー化した恩恵を受け，かなり読み取りやすいものになってきている。だが，写真については，白黒写真が多いため，際立って見やすくなったわけではない。のみならず，単なる人物の顔写真や，本文との関係が曖昧なものも少なくなく，選定について改善の余地が多いと思われる。現行の教科書では，太平洋戦争ですら 3 ～ 4 頁しか割かれておらず，それに対応させて掲載できる写真は 5 ～ 8 枚に過ぎない。その写真を，真珠湾攻撃について 1 枚，本土爆撃について 1 枚，沖縄戦について

1 枚、原爆について 1 枚というように配置するのだから、1 枚 1 枚の重みは相当に大きなものになる。掲載写真の精選は、かなり重要な課題なのである。

しかし、教科書に載せる写真の選択を、正面から扱った研究はほとんどない。近年の、歴史教育者協議会の特集「子どもと学びたいアジア太平洋戦争」でも、絵本、アニメ、映画、戦争体験、遺物、遺跡などの活用を論じながらも、写真について掘り下げた論稿はなかった¹。榎澤和夫『絵画・写真・地図を使って討論を』（榎澤、2000）も、天皇・皇后の 5 枚とアイヌの 2 枚の写真をあげているだけで、本稿の主題に即した研究ではない。このような現状を招いた一因は、自由主義史観研究会が、日本の歩みを美化する目的や事実の誤認にもとづいて既存の教科書を攻撃した際に、写真について多くの批判を行ったことにあるのかもしれない²。掲載写真の改良を求めることは、間接的に同会を利するのではという意識が、歴史教育者・研究者の間にあったのではないかということである。とはいえ、同会が行った批判は、概ね、日本によるアジア抑圧に関する写真を減らすべき、もしくはキャプションを不当とするような内容のものであり、教科書全体の底上げに直ちに結びつくようなものではなかった。そのため、同会とは別個に、具体的な改良案を出していくことが、やはり必要だと思われる。

筆者は、『世界画報』『写真通信』『国際写真情報』をはじめとする戦前・戦後の写真雑誌や、写真を多く掲載した本を、大学の授業やインターネットでの活用・普及を目指し、収集・複写してきた。その中には、国会図書館に収められておらず、毎日新聞社のデータベースにも載っていないものが大量に存在する³。それらを通観する中で、現行の中学校用教科書に載っているものよりも、教育効果が高いと思われる写真を数十枚見つけた。本稿では、第一次大戦から第二次大戦までの授業（コラム的な部分を除いて 14 ～ 15 回）に合わせ、各回 3 枚程度を紹介していきたい。そのことで、教科書を充実させるための 1 つの指標を示すこととする。

なお、筆者が収集・閲覧した写真雑誌は、概ね 1956 年までに出版されたものである。これは、インターネットで公開する時の著作権を意識しての選択である。その結果、ユダヤ人の迫害に関するものなど、日本への紹介が遅れがちだったテーマの写真は、あまり入手できていない。また、戦時中に日本で刊行された写真雑誌には、当時の体制にとって不利となるような写真があまり載っていない。これらの条件を勘案して、今回は、太平洋戦争が始まった頃までのみを扱うことにする。そして、授業回数は 12 回分を想定する。

その 12 回の区切り方は、シェアが最も高い 2 社（東京書籍—以下東書と記す、大阪書籍—以下大書と記す）の現行教科書⁴を踏まえつつ、筆者の判断で構成した。今後、授業数の増加や、区切り・順序の変更があっても、扱う中身が完全に入れ替わるわけではないので、今回紹介する写真は、継続的に活かしていけるものである。

1. 「第一次世界大戦と日本の参戦」

この回では、小テーマ：「はじめての世界大戦」「日本の参戦と二十一か条の要求」「長引く戦争と総力戦」を扱う。これらのテーマについて、東書の教科書は、「砲弾製造工場で働く女性たち⁵」「戦車（1 台）」「大戦に動員されたインド兵」の写真をあげている。これらは、総力戦、新兵器、世界規模の戦争という 3 つの要素をカバーするものであり、優れた選択だといえる。大書の教科書では、「空と陸の戦い」という絵（多くの兵器が描かれたもの）があげられているだけで、写真は使われていない。

このような現状の教科書に対し、戦争そのものの説明につき付け足す写真があるとすれば、「1－A ドイツ軍が放棄していった大砲」などはどうだろうか。戦争の無残さを表し得た写真だと思われる。また、「1－B 毒ガスを防ぐイギリス兵」も、毒ガス戦の模様を生々しく伝える写真である。それから、戦車の写真としては、「1－C イギリス軍の戦車」はどうだろうか。これは、燃料を補給している様子だが、戦争で物資が浪費されることも伝え得るだろう。



1-A ドイツ軍が放棄していった大砲

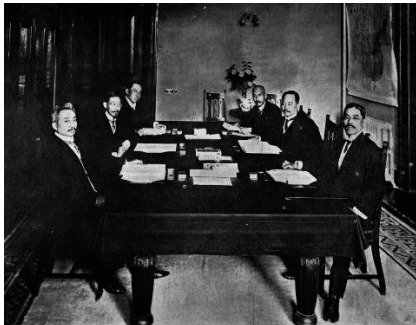


1-B 毒ガスを防ぐイギリス兵

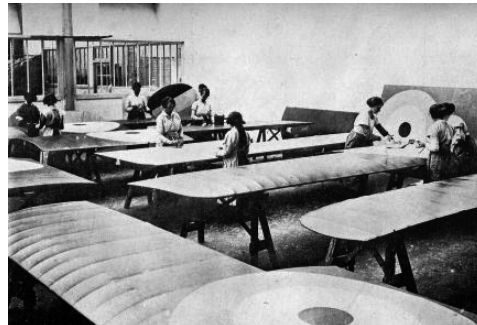


1-C イギリス軍の戦車

それから、日本の参戦と対華二十一か条要求に対応させる写真としては、是非にという程のものを見つけることはできていない。「1－D 二十一か条の調印」を、一応あげておくが、掲載の必要性が高いものではない。また、戦いが総力戦・長期戦になったという説明に対応させる写真としては、「1－E 軍用機の翼を塗装する女性たち」はどうだろうか。これはイギリスの写真であり、同国で大戦後、婦人普通選挙が実現したことの前提としても、授業で活かせる写真である。



1-D 二十一か条の調印



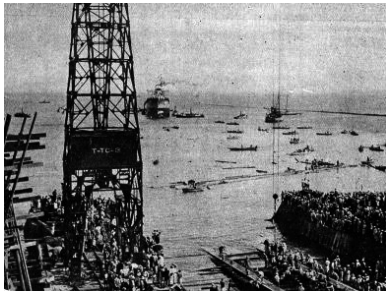
1-E 軍用機の翼を塗装する女性たち

2. 「ロシア革命と米騒動」

この回では、小テーマ：「日本の好景気」「ロシア革命とシベリア出兵」「米騒動」を扱う。これらのテーマについて、東書の教科書は、「レーニン（顔写真）」をあげ、大書の教科書は、「船の進水式」「演説するレーニン（上半身）」という写真をあげている。米騒動については、両社ともに、暴動の様子を描いた絵をあげ、写真を使ってはいない。

このうち、「日本の好景気」には、「2－A 神奈川の造船所での船の進水」を充ててはどうだろうか。この写真は、大書が掲載するものと同じ造船所のものだが、埋め立てで誕生した京浜工業地帯の情景を窺うこともできる。この写真に触れつつ、四大工業地帯の形成について説明することも可能だ

ろう。続く「ロシア革命とシベリア出兵」については、「2－B ロシア議会に押し寄せた人々」と「2－C 演説するレーニン」をあげておく。前者（2－B）は、十一月（十月）革命の時のものである。東書・大書は革命それ自体の写真を載せていないが、スペースに余裕があるならば、やはりこのような1枚を載せたいところである。



2-A 神奈川の造船所での船の進水

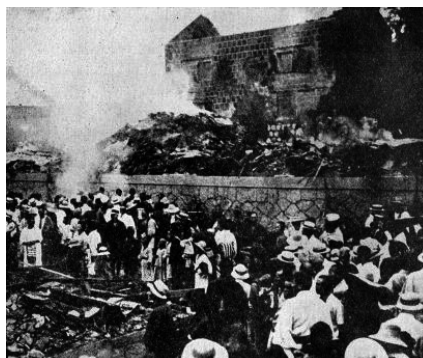


2-B ロシア議会に押し寄せた人々

後者（2－C）は、大書が掲載するものと同一の写真だが、レーニンの姿だけを切り取るのではなく、周囲の人々（兵士）をも含めたものである。教科書のスペースの問題もあるが、やはり個人の写真よりも、周りの情景まで写っているものの方が、雰囲気伝えやすい。「2－D 焼き打ちされた精米所」は、米騒動に対応させる写真である。東書・大書はともに、「米騒動絵巻」の絵を使っているが、このような写真が残っているのに、わざわざ創作物で済ます必要性は薄いだろう。



2-C 演説するレーニン



2-D 焼き打ちされた精米所

3. 「第一次世界大戦の終結」

この回では、小テーマ：「ベルサイユ条約」「国際連盟と軍縮への動き」を扱う。東書・大書の教科書は、写真については、同じ「新渡戸稲造（顔写真）」をあげているだけである。両社は、ベルサイユ条約の調印式についても、同一の絵をあげている。

筆者も、この部分については、教材として適した写真をあまり思い浮かべることができない。絵よりは客観的だということで、「3－A ベルサイユ講和会議」を提示しておくが、記憶に残りにくい写真ではある。国際連盟の会議やワシントン軍縮会議も、同じような図柄の写真になってしまうので、あ

げるとしても1枚で充分だろう。この回では、他に、「3-B 休戦を喜ぶロンドン市民」などはどうだろうか。戦争や事件に関する重苦しい写真だけでなく、このような緊張を緩和する性格のものも必要だろう。それから、新渡戸稲造については、動きのない従来の顔写真よりも、「3-C 新渡戸稲造」を使った方が良いだろう。



3-A ベルサイユ講和会議



3-B 休戦を喜ぶロンドン市民



3-C 新渡戸稲造

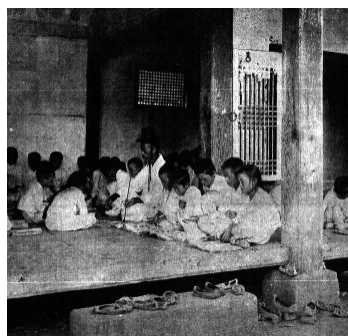
4. 「民主主義と民族主義運動」

この回では、小テーマ：「民主主義の拡大」「アジアの民族主義運動」を扱う。東書の教科書は、「ガンディー（糸を紡いでいる写真）」、「五・四運動（演説に集まる民衆）」の写真をあげている。大書の教科書は、同じ「ガンディー」の写真をあげ、五・四運動については絵を使っている。両者ともに、柳宗悦に関連する写真（東京書籍は壺、大阪書籍は柳の顔写真）をあげているのも特徴である。

これらの題材について、筆者が用意した写真は次の3点である。まず、歴史的な大帝国が幾つも消滅したことの説明を受けて、「4-A 廃位されたオスマン皇帝」を提示したい。廃帝の写真としては、ウィルヘルム2世のものが有名だが、それを載せるとヨーロッパ偏重の度合いがますます強くなる。ここは、中学校の歴史教科書全体を通して、言及されることが少ないオスマン帝国の皇帝（スルタン）の写真を使ってはどうだろうか。また、アジアの民族主義運動の説明に合わせ、「4-B 朝鮮の書堂」をあげたい。これは、植民地朝鮮では、「文化政治」への転換後も、義務教育が実施されず、依然として書堂の役割が大きかったという説明に付けるものである。それから、中国での五・四運動については、「4-C 五・四運動」を提示しておく。これは、同じような写真を東書も使っているのだが、カメラを意識した子どもが画面に入っており、やや緊張感に欠ける。そこで、この写真をあげておいた。



4-A 廃位されたオスマン皇帝



4-B 朝鮮の書堂



4-C 五・四運動

また、インドのガンディーについては、糸を紡ぐ個人写真では、民族運動の「運動」としての面が伝わりにくい。そこで、「4－D 釈放されたガンディー」を提示したい。これは、1931年の写真なので、やや後代のものになるのだが、「民衆の中のガンディー」について伝えることができるのではなかろうか。



4-D 釈放されたガンディー

5. 「大正デモクラシーと社会運動の高まり」

この回では、小テーマ：「高まる日本の社会運動」「普通選挙制と政党政治」を扱う。東書の教科書は、「第1回メーデー」、「香川の小作争議」、「全国水平社青年同盟の演説会」、「新婦人協会の第1回会議」、「投票所にあふれる人々（1928年の普通選挙）」、「吉野作造（顔写真）」などの写真をあげている。大書の教科書は、同じ「全国水平社」と「吉野作造」の他、「婦人参政権を求める運動（街頭での宣伝）」、「普通選挙を求める演説会」の写真をあげている。

これらの多くが、時代状況を堅実に写し出していることを認めた上での提案だが、「5－A 友愛会の全国大会」も、魅力的な写真である。先頭の2人（鈴木文治と賀川豊彦）の思いを、生徒に考えさせても良いだろう。また、「5－B 治安維持法反対の集会」は、幟の「治安維持法」という文字が読み取れる分、何が争点になっているのかを伝えやすい写真である。



5-A 友愛会の全国大会



5-B 治安維持法反対の集会

「5－C 普通選挙法を可決した衆議院」は、議会の様子を伝える写真が、教科書の前後にほとんどないことを受け、提示しようというものである。しかも、着色写真なので、生徒の印象にも残りやす

いだろう。



5-C 普通選挙法を可決した衆議院（着色写真）

6. 「生活の変化と文化の大衆化」

この回では、小テーマ：「関東大震災」「都市文化の広がり」を扱う。東書の教科書は、「関東大震災後の東京」、「浅草六区の娯楽街（着色写真）」、「宝塚少女歌劇の公演」、「バスガールたち」、「芥川龍之介（顔写真）」の写真をあげている。大書の教科書は、「関東大震災後の東京」、「現在の田園調布の様子（カラー）」、「タイピストたち」、「ラジオを聞く一家」の写真をあげている。

このうち、関東大震災の説明には、震災の中で撮られた「6－A 関東大震災－有楽町付近の様子」を付けてはどうだろうか。焼け跡の写真よりも、どのような状況の中で、14万人にものぼる死者・行方不明者が出たのかを考えさせやすいのではなかろうか。また、朝鮮人・中国人の殺害の件を補足する形で、「6－B 朝鮮人を収容する陸軍」を付けることを提案したい。この写真は、殺害ではなく、保護しようとしているところだが、朝鮮人が危険な状況に追い込まれていたことを示し得るだろう。



6-A 関東大震災－有楽町付近の様子



6-B 朝鮮人を収容する陸軍

都市文化の説明については、東書・大書があげているものの他に、「6－C 京都につくられた公設市場」「6－D 完成した阪急百貨店」などはどうだろうか。前後に、人が密集した写真が多いので、このようにすっきりしたものを入れてはどうかということである。



6-C 京都につくられた公設市場



6-D 完成した阪急百貨店

7. 「世界恐慌から満州事変へ」

この回では、小テーマ：「朝鮮・台湾と統一を進める中国」「世界恐慌」「日本の不景気」を扱う。東書の教科書は、「パンの支給を待つアメリカの失業者」、「東北地方の不況（一家の食事）」、「狙撃された浜口総理大臣」の写真をあげている。大書の教科書は、同じ「パンの支給を待つアメリカの失業者」の他、「爆破された満州の軍閥の列車（張作霖の乗った列車）」、「国民政府の旗を掲げる北京の街」、「大根をかじる東北地方の子どもたち」、「東北地方の凶作に対する募金活動」の写真をあげている。

東書・大書の教科書は扱っていないが、ここで朝鮮での産米増殖事業・米の移出に言及するなら、「7－A 朝鮮における米穀検査」のような写真を付けたいところである。また、中国の統一については、張作霖の列車の写真を単独であげるだけでは、その意味を伝えるのは難しい。「7－B 山東半島に上陸した日本軍」のような写真を載せ、日本軍による介入が再開されたという説明を付すぐらいが適当ではなかろうか。



7-A 朝鮮における米穀検査



7-B 山東半島に上陸した日本軍

アメリカと日本の不況については、「パンの支給を待つアメリカの労働者」や「東北地方の不況（一家の写真）」を載せれば充分かもしれない。少し角度を変えた写真としては、例えば「7－C アメリカの失業者のデモ」はどうだろうか。これは、人数が多く、より迫力のある写真である。また、「7－D 娘の身売りの相談」も、強いインパクトを持つ写真である。中学生には不向きだという意見もあるが、本文に「身売り」という言葉が出てくるのだから、掲載の可否を世に問うても良いのではなかろうか。



7-C アメリカの失業者のデモ



7-D 娘の身売りの相談

8. 「満州事変」

この回では、小テーマ：「満州事変」「強まる軍部の力」を扱う。東書の教科書は、「満州国の建国記念日（溥儀らの集合写真）」「犬養毅の暗殺を報ずる新聞（顔写真入り）」「国際連盟で発言する松岡洋右」「日本の自動車工場」の写真をあげている。大書の教科書は、「満州で開拓を進める日本の農民」，「犬養毅（顔写真）」の写真をあげている。

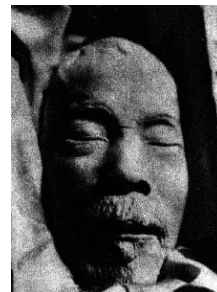
溥儀の儀礼関係の写真は多数残っており、教科書にどれを使うか迷うところだが、例えば、「8-A 溥儀の執政就任式（着色写真）」のような着色写真を使うのも一手だろう。また、「8-B リットン調査団による調査」は、定番ではあるが、世界が満州事変をどう見たかを雄弁に物語る写真であり、継続的に掲載していくべきだろう。それから、五・一五事件については、犬養首相の単なる顔写真ではなく、東書のような新聞の活字とセットにした示し方が有効だろう。「8-C 犬養首相のデスマスク」は暗殺の衝撃を直接に伝え得る写真だが、中学校の教科書に載せるには反対が多いかもしれない。



8-A 溥儀の執政就任式（着色写真）



8-B リットン調査団による調査



8-C 犬養首相のデスマスク

犬養内閣が倒れ、満州国を承認した日本が国際連盟を脱退する説明には、「8-D 国際連盟を去る日本の代表团」を付けたい。東書は、松岡洋右の反対演説の写真を載せているが、松岡の名を覚えさ

せようというのではないようである。それならば、代表団が会場を後にするこの写真の方が、話の展開を掴ませやすいだろう。



8-D 国際連盟を去る日本の代表団

9. 「恐慌から立ち直る世界」

この回では、小テーマ：「ニューディール政策とブロック経済」「ファシズム諸国の台頭とソ連」を扱う。東書の教科書は、「フランクリン・ルーズベルト（顔写真）」、「ニューディール政策で建設されたダム（カラー）」、「ナチスの大会（カラー）」、「本を焼くナチス」の写真をあげている。大書の教科書は、「ムッソリーニとヒトラー（2人が並んだ写真）」の写真をあげているだけである。

アメリカやドイツのこの時期の写真には、カラーのものも多数ある筈で、探求の余地は多い。東書の「ナチスの大会」は、1枚でヒトラーと熱狂する群集の姿を押さえたカラー写真であり、優れた選択だといえるが、それに匹敵するものも存在することだろう。その探索は、今後の課題としたい。

それから、ソ連については、五か年計画の説明を補足するべく、大規模なコンビナートの写真を付けるのも良いだろう。だが、八幡製鉄所の写真や、地理的分野の教科書によって、生徒たちはある程度、重工業の工場のイメージを掴んでいる筈である。それならば、「農業の集団化」のような、イメージが掴みにくいものについて、写真を付けた方が良いだろう。例えば、「9－A 集団農場における刈り取りの相談」の写真などはどうだろうか。



9-A 集団農場における刈り取りの相談

10. 「日中戦争と戦時体制」

この回では、小テーマ：「二・二六事件」「中国との全面戦争」「強まる戦時体制」を扱う。東書の教科書は、「二・二六事件（議事堂前の反乱軍）」、「ラクダで物資を運ぶ日本兵」、「南京陥落を祝う人たち」、「パーマネントを批判する看板」、「動員された朝鮮の若者たち」の写真をあげている。大書の教科書は、同じ「二・二六事件（議事堂前の反乱軍）」と、「中国大陆を進軍する日本兵（歩兵と戦車）」、「南京の陥落を祝う街の様子」、「中学校の軍事教練」の写真をあげている。

二・二六事件について、両社の教科書があげる写真は、何をしているところかわかりづらい。1枚選ぶとすれば、「10－A 周囲を警戒する反乱軍」が良いのではなかろうか。また、日中戦争の戦場については、候補は多数あるが、鮮明な着色写真である「10－B 上海を制圧する日本軍（着色写真）」などはどうだろうか。



10-A 周囲を警戒する反乱軍



10-B 上海を制圧する日本軍（着色写真）

南京陥落を祝う写真でも、「10－C 南京占領の前祝い（着色写真）」が鮮明であり、有力な候補になる。戦時体制については、例えば「10－D 戦死者を出した家」はどうだろうか。



10-C 南京占領の前祝い（着色写真）



10-D 戦死者を出した家

11. 「再び起きた世界戦争」

この回では、小テーマ：「第二次世界大戦の始まり」「ドイツ・イタリアへの抵抗」を扱う。東書の教科書は、「ポーランドに侵攻するドイツ軍」、「日独伊三国同盟（調印日のヒトラーたち）」、「アンネ・

フランク（着席しているところ）」、「かくれ家のアンネの部屋」、「アウシュビッツ収容所」、「チャーチル（上半身）」の写真をあげている。大書の教科書は、同じ「ポーランドに侵攻するドイツ軍」の他、「ロンドンを空爆するドイツ空軍」、「迫害されるユダヤ人の家族」、「アンネ・フランク（顔写真）」、「切手になった杉原千畝（顔写真）」の写真をあげている。

筆者の手元には、アンネ・フランクや、アウシュビッツに関する著作権切れの写真はないので、それらを除いた提案となるが、ポーランド侵攻については、「11－A 捕虜になったポーランド兵」、ロンドン爆撃については、「11－B 炎上するロンドン市街」などはどうだろうか。兵器の形状よりも、これらの写真のように、人や街がどうなったのかを伝える方が重要だろう。その意味で、「11－C ソ連に侵攻するドイツ軍」も、教育効果を持つ写真だろう。



11-A 捕虜になったポーランド兵



11-B 炎上するロンドン市街



11-C ソ連に侵攻するドイツ軍

12. 「アジア・太平洋での戦争」

この回では、小テーマ：「日本の南進と経済封鎖」「太平洋戦争の始まり」を扱う。東書の教科書は、「真珠湾攻撃（カラー）」、「泰緬鉄道の工事に従事する住民」、「日本軍による犠牲者の記念碑」の写真をあげている。大書の教科書は、この回に「日独伊三国同盟（日本における祝賀会）」を入れ、同じ「真珠湾攻撃（カラー）」の写真をあげている。

これらのうち、真珠湾攻撃のカラー写真は定番といえるものである。泰緬鉄道の工事については、東書があげるものよりも、病死者が多発したジャングルで撮られたものが望ましいだろう。しかし、筆者は不鮮明な写真しか入手していない。もう少し探してみる必要があるだろう。また、資源の争奪に関連させて、「12－A 日本への輸出を停止した鉄くず」「12－B ブルネイの製油所を占領した日本軍（着色写真）」の2枚を載せてはどうだろうか。より適当な写真もあり得るだろうが、この種の写真が1枚は必要だろう。



12-A 日本への輸出を停止した鉄くず



12-B ブルネイの製油所を占領した日本軍
(着色写真)

おわりに

以上、私案として 41 枚の写真を具体的に示した。教科書づくりは、教育現場の声を見聞きしながら行っていくものであり、これらの写真は、議論の叩き台ということになる。また、もとより、個人の力で収集した写真なので、探索自体これで終わりというわけではない。今後も、より適した写真を求め、模索が続くことになる。

その際、着色写真の活用の是非、残酷な面を持つ写真を載せる是非などは、より一般性を持つ議論になり得るものだろう。そのことも含め、現場の声にも耳を傾けつつ、より教育効果の高い教科書をつくっていけるよう、分析を続けていきたい。

注

- 1 『歴史地理教育』2005 年 7 月号。
- 2 例えば、藤岡信勝（編）、自由主義史観研究会（著）『2000 年版 歴史教科書を格付けする』（2000 年、徳間書店）。
- 3 毎日新聞社は、幕末から現代に至る 22 万枚の写真をデータベース化して公開しており、各教科書会社もそれを有効に活用してきた。しかし、本稿であげる写真とは、9 枚目（2－D）で初めて重なるような状況である。一方、朝日新聞社にも、同規模かそれ以上の写真が残されている筈であり、筆者も閲覧を進めているが、こちらは未整理である。本稿では、ひとまず筆者が収集したもの限定して提示することとする。
- 4 『新編 新しい社会』（2005 年検定、東京書籍）『中学社会 歴史的分野』（2005 年検定、大阪書籍）。
- 5 これらの東書・大書の教科書があげる写真のタイトルは、随時、よりわかりやすいものに改めた。

写真引用元一覧

- 1－A：『欧洲戦争実記』1914 年 11 月 15 日号（博文館）より

- 1－B:『写真通信』1915年7月号(大正写真通信社)より
- 1－C:『欧洲戦争実記』1915年5月15日号(博文館)より
- 1－D:『欧亜列強大戦写真帖』(帝国軍人教育会, 1920年, 大正通信社)より
- 1－E:『欧亜列強大戦写真帖』(帝国軍人教育会, 1920年, 大正通信社)より
- 2－A:『写真通信』1917年8月号(大正写真通信社)より
- 2－B:『欧亜列強大戦写真帖』(帝国軍人教育会, 1920年, 大正通信社)より
- 2－C:『世界現状大観』ソヴェト・ロシア篇(佐藤義亮, 1931年, 新潮社)より
- 2－D:『画報近代百年史』10(日本近代史研究会編, 1952年, 国際文化情報社)より
- 3－A:『欧亜列強大戦写真帖』(帝国軍人教育会, 1920年, 大正通信社)より
- 3－B:『画報近代百年史』10(日本近代史研究会, 1952年, 国際文化情報社)より
- 3－C:『太陽』1921年2月号(博文館)より
- 4－A:『太陽』1923年2月号(博文館)より
- 4－B:『写真帖朝鮮』(朝鮮総督府, 1921年)より
- 4－C:『太陽』1919年7月号(博文館)より
- 4－D:『国際写真情報』1931年6月号(国際情報社)より
- 5－A:『写真通信』1921年11月号(大正写真通信社)より
- 5－B:『画報近代百年史』11(日本近代史研究会, 1952年, 国際文化情報社)より
- 5－C:『カメラの見た大正十四年史』(東京朝日新聞社, 1926年)より
- 6－A:『東京府大正震災誌』(内務省社会局, 1926年)より
- 6－B:『明治大正60年史』(毎日新聞社出版室図書編集部, 1956年, 毎日新聞社)より
- 6－C:『京都市政要覧』(京都市, 1929年)より
- 6－D:『阪神急行電鉄二十五年史』(吉原政義, 1932年, 阪神急行電鉄株式会社)より
- 7－A:『朝鮮の産業』(朝鮮総督府, 1935年)より
- 7－B:『山東派遣軍写真帖』(著作者不明, 1928年か)より
- 7－C:『画報近代百年史』12(日本近代史研究会, 1952年, 国際文化情報社)より
- 7－D:『写真昭和30年史』(毎日新聞社, 1955年)より
- 8－A:『満洲事変大画報』4(国際情報社, 1932年)より
- 8－B:『画報近代百年史』13(日本近代史研究会, 1952年, 国際文化情報社)より
- 8－C:『写真昭和30年史』(毎日新聞社, 1955年)より
- 8－D:『画報近代百年史』13(日本近代史研究会, 1952年, 国際文化情報社)より
- 9－A:『国際写真情報』1937年5月号(国際情報社)より
- 10－A:『写真昭和30年史』(毎日新聞社, 1955年)より
- 10－B:『国際写真情報』1937年10月号(国際情報社)より
- 10－C:『国際写真情報』1938年2月号(国際情報社)より
- 10－D:『アサヒグラフ』1941年1月1・8日合併号(朝日新聞社)より
- 11－A:『世界画報』1939年11月号(国際情報社)より
- 11－B:『第二次大戦回顧録』7(チャーチル著, 毎日新聞翻訳委員会訳, 1950年, 毎日新聞社)より
- 11－C:『歴史写真』1941年11月号(歴史写真会)より
- 12－A:『歴史写真』1940年12月号(歴史写真会)より

12－B：『大東亜戦画史』（東亜振興会，1943 年）より

引用文献一覧（写真引用元を除く）

藤岡信勝（編），自由主義史観研究会（著），2000 年，『2000 年版 歴史教科書を格付けする』，徳間書店
歴史教育者協議会，2005 年，『歴史地理教育』687 号，歴史教育者協議会
榎澤和夫，2000 年，『絵画・写真・地図を使って討論を』，日本書籍